

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービス以前の理念を基に、地域に根付いたサービスが提供できるよう新たに作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>いつでも目に付くように、ホールやステーション内へ掲示している。また、何か問題に行き詰った時には、理念に添っているか話し合うようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>契約時には説明している。他、運営推進介護で伝えたり、施設内に掲示し理解していただけるように務めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近くの小学校行事を見学させて頂いている。少しずつではあるが交流が持て、散歩中に小学校の生徒さんと挨拶を交わし合えるようになっている。町内会の清掃活動へも職員が参加し、交流の場としている。また、天気の日には公園へ散歩に出かけたり、足りない食材を買いに近くのスーパーへ行く等積極的に地域に赴くように心掛けている。</p>	<p>町内会の行事に参加したり、グループホーム内でお菓子教室を開くなど幅を広げて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新職員には個別で申し送りを行い、職員ミーティングでケアを統一させるようにしている。また、利用者の状態変化に気をつけ早急に対応できるように職員同士の話し合いの機会を多く持つように心がけている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での研修委員があるので、企画される内部研修へ参加するようにしている。また、経験年数に合わせ外部研修に参加出来るようにし、その内容をミーティングの際に他の職員へ伝えるようにしている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修に参加し、他施設と交流出来るようにしている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>カラオケ大会やボーリング大会、旅行、交流会等を行っている。又、ストレスについてアンケートを実施し、職員がストレスと感じる事について軽減できるような方法を検討し取り組んでいる。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人独自の自己評価があり、目標や評価を随時見直ししている。他に面談を行ったり、資格取得に対して支援がされている。また、外部研修も積極的に参加出来るように、回覧や掲示などがされ全職員へ働きかけられている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方に最善の介護が提供できるように、相談し合っている。		もっと、家族の方と深い関係を作れるように対応方法を検討している。面会時の関わりや家族と一緒に参加できる行事を工夫している。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設行事や家族会へ参加して頂き、一緒に過ごす時間が保たれるように心掛けている。また、ご本人様やご家族様の希望に合わせ電話をし合ったり、外出・外泊ができるようにサポートしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪問してくださったり、行きつけの美容室へ出かけたりと関係が途切れないように努めている。また、行事等で自宅付近へドライブに行ったり、ご家族様より若い頃良く通っていた場所等を伺い出かけるようにしている。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の中で一緒に活動し、仲間意識が持てるように声をかけるように心掛けている。レクや作業など、意図的に集まる時間を設けお互いが声を掛け合えるように働きかけをしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時にはいつでも協力できることを説明し、相談体制を整えている。必要に応じては手紙を出したり電話連絡をするようにしている。同一法人への入所の場合は散歩をしながら遊びに行ったり、入院先にはお見舞いに出かけることもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人様よりお話を聞き、出来る限り対応出来る様に努めている。また、ご家族様から暮らしぶり等で気が付いた事が無い意見か意見を頂戴し、暮らしやすい生活を目指している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に自宅へ訪問し、お話をお伺いしている。入居後も折に触れご本人様やご家族様よりお話をお伺いし把握している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日をどの様に過ごしているかを定期的に会議で話し、変化に気を配っている。生活に変化が見られるときには再度検討し、有する能力を活用できるようにサポートしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員やご家族様、必要に応じ主治医等、幅広く意見が聞ける様に心掛けて作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況に合わせて、現状に即した計画になるように見直しを行なっている。その際には職員やご家族様、主治医より意見を頂き計画へ組み込んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースがあり日常生活、認知症の症状等を記録している。ケースはいつでも確認する事が出来、職員は情報を共有する事が可能である。計画作成の際にはそれを基に行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、入退院の送迎介助や本部のリフト浴の使用等状況に応じ対応している。また、敷地内へあるカフェへランチや居酒屋を楽しみに出かけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の小学校の行事へ参加をさせて頂いている。他に、消防署や町内会の協力を得て防災訓練を行っている。		地域との関わりをもっと持てるように方法を検討していきたいと思っている。
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時には他施設のケアマネと連携を取り空室情報をやり取りしたり、サービスについて話し合う事がある。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ都合が合うときには参加頂いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に合わせかかりつけ医を決めている。かかりつけ医が無い場合や状態に合わせては、事業所の嘱託医を紹介し了解が得られると変更をする場合もみられる。利用者の状態に合わせた医療を受けられる体制が整っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族様と相談し専門医を決定し通院している。定期的に施設職員が付き添い、その時の状態に合わせた内服調整やアドバイスを頂いている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	本部の看護職員と連携を密にし、健康管理や急変時等協力してもらっている。いつでも相談できる環境にあり、夜間も連絡が取れるようになっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中にはご家族様より電話にて状態を確認したり、今後の意向確認をし不安を感じられないように支援に努めている。また、入院先へ出向き経過を把握するようにしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針は現在は取っていないので、入居の際に説明し重度化した場合について早期より話し合うようにしている。必要に応じて医師、ご家族様と今後について話し合うこともある。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態の変化に合わせ、話し合いを多く持ち今後について、他サービスや病院など情報提供を行っている。また、必要に応じて一緒に施設を探す事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームでの生活状況や職員の対応方法をまとめ提供している。書面での交換だけではなく、直接会って話をしたり、電話でやり取りを行い補いあっている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人に合わせ介助方法を変え、プライバシーが損なわれないように職員は表情や言動に気を配っている。また、職員同士で対応方法について注意し合いプライバシーが確保される様にしている。記録は誰もが手に出来ないように鍵のかかる書庫で保管し、情報は家族の同意を得て使用している。</p>		
<p>48 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来る限り自分で決めてもらえるように声掛けを工夫している。また、決定する機会を増やす事が出来るように職員同士話し合い、自分達の声掛けについて見直しを行なっている。</p>		
<p>49 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな日常の流れはあるものの殆ど生活のパターンは決まっておらず、その日の状態や天候等によって一日の生活が変わっている。一人一人の希望の取り入れも可能であり、買い物へ出かけたり散歩へ出かけたりと柔軟に対応できている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>選べる方には自由に選んでいただき、選ぶ事が困難な方には職員がその人らしいものを一緒に選ぶようにしている。理美容院は、希望の所へ行く事が出来、化粧や整容など整えられている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態はその方に合わせた物になっている。また、一緒に準備を行い、匂いや味付けなど楽しんで頂いている。また、スーパーへ出向き季節のものや好みのも のを選んで食事へ取り入れることも行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	本人の好みに合わせ一緒に買い物へ出かけたり、職 員が購入している。また、居酒屋へお酒を飲み出かけ たり、外食したりと幅広く日常的に楽しめるようになっ ている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、個別に合わせパターンを把 握している。定期的にトイレ誘導を行い、状態に合わ せ使用するオムツ類も調節している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	週に二回と入浴日は決まっているものの、その他に希 望に合わせ入浴することも可能となっている。温度や 時間帯は好みに合わせる事が出来ている。		曜日を決めず入浴できる事が目標ではあるが、殆ど の方が介助が必要であり今現在の職員体制では困難で ある。少しずつ、方法を検討し挑戦していきたい。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	個人に合わせた活動を提供し、疲労が残り過ぎないよ うに、また適度に休息時間が持てるように心掛けてい る。眠る際には温かいタオルで身体を拭いて頂いた り、ホットミルクを提供し落ち着いていただけるような時 間の提供に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	月ごとに行事を計画し、個人に合わせて楽しみごとが もてるように気を配っている。手芸、書道、畑仕事等、 興味のあることや好きな事はどんどん働きかけてい る。ドライブも少人数でいつでも出かけられるように、 時間や場所を工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方にはお財布を持っていただき使用して頂いている。管理が困難な方でも御家族様より協力して頂き、小銭程度を持って頂くこともしている。他に、外出の際には利用者の方にお支払をしていただきお金を使用する機会を確保している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の松林の散歩や道路向かいにある本部へ日常的に出かけている。他にも、希望があると近くの商店へ買い物へ出かけたり、散髪に出かけたりと戸外へ出かけるように支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホテルでの新年会や回転寿司、居酒屋など、ご希望があると少人数で出かけるようにしている。ドライブの場所も意見を尋ね目的地を決めている。		個別の行事参加は始めたばかりなのでもっと、活動範囲を広げ様々な事を体験していただけるようにしていきたい。その中で、御家族様との時間も設けられるように働きかけをしていきたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御自分でかける事が可能な方には自由に使用していただき、支援が必要な場合には子機を使用し相手に繋がった時点で自室にてゆっくりとお話が出来るように支援している。また、年賀状や暑中見舞い等御家族様とやり取りしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に御家族様へ面会時間が設けられていないことやどなたでも面会が可能な事を説明し、気兼ねなく訪問して頂けるように努めている。面会時は自室にてゆっくりと過ごしていただけるように工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い全職員が理解できるように努めている。身体拘束をしないケアの為に危険行為がある場合には職員や御家族様で話し合い、意見を出し合った上で実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。どうしても必要な場合には職員で話をし鍵をかける時間帯や場所を決めている。また、常に見直しをし鍵をかけないケアを職員が目指している。外へ出ようとされるときには出来る限り付き添い気分転換をするようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認を念頭に置いている。お部屋にいらっしゃる場合にはトイレの利用やお茶の勧め等でさりげなく確認できるように工夫している。夜間は二時間ごとに巡回を徹底している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置き場所を工夫し、一律になくすのではなく使用方法を検討するようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	改善策を職員全員で共有し事故防止に取り組んでいる。また、会議で事故について話し合い、マニュアルを確認するなど対応方法を学んでいる。利用者一人一人の状態を確認し合い、ひやりはっとを検討するなど未然に防げるようにしている。		今以上に事故が防げるように徹底していきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法を内部研修や外部研修で学んでいる。年に一度消防署の指導のもと救命講習を受けている。マニュアルがあるので、定期定期に職員同士確認しあっている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、避難訓練を行っている。運営推進会議にて、地域住民の方に協力が得られるようお願いをしている。		まだまだお願いを始めたばかりなので、今後も声掛けを続け協力してくださる住民の方が増えてくださればと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	拘束をしないことを説明し、それに合わせ危険が生じてくることを伝えている。ご家族さまとその方らしい生活が出来るように必要なことを話し合い対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、月に1~2回の体重測定、回診、通院等で速やかに変化に気がつくように心掛けています。生活状況や食事量など異常を感じた時には本部のナースに相談し対応している。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケースに入れ何時でも確認できるようにしている。内服の際にも、職員が複数で確認するようにし間違いを防いでいる。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についてナースや栄養士といつでも相談できるようになっている。下剤の使用もその時の調子に合わせて調節し、減らせるように日中の活動内容や水分・食物を工夫している。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で磨ける方には磨いていただいている。困難な方へは介助している。また、週に一度は消毒をし、食後はイソジンを薄めた液で口腔内をうがいして頂いている。必要に応じては歯科の受診も提供している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日々の記録として記入している。不足しているものは捕食として提供したり、食事形態を検討するなどその時の状態に合わせて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり実行している。委員会があり、月ごとに目標が立てられ取り組みがされている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食後には調理器具や台所を消毒している。週に一度は食器もハイター消毒を行っている。同じく週に一度冷蔵庫の整理日を設け期限切れに注意している。当日の遅番者が冷蔵庫内点検を毎日行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植えたり、装飾をし入りやすい環境を工夫している。建物周辺が分かりづらい為入り口に案内板を設置している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾を工夫し季節感を感じて頂けるように工夫している。日ざしが強い所には遮光シートを張ったり、イスへ布を巻いたりと配慮に努めている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファールを設置し集える場所を工夫している。		冬季こたつを検討中です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に御家族様やご本人様へ使い慣れたものは何でも持込が可能な事を説明している。ベットや布団を選ぶことが出来たり、御家族様との写真を飾るなど配慮に努めている。</p>		<p>なかなか持込が少ない現状にある為、御家族様に協力を依頼し、もっと家庭的なお部屋にしたいと思っている。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度・湿度計を設置し変化に気をつけている。窓の開閉や換気扇を用いて空調調節をしている。暖房は床暖で、冷房はクーラーや扇風機を併用しその日の状況に合わせている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりが設置されており移動の際に使用されている。ベットや布団の選択が出来、状態に合わせて変更し安全な環境になるように努めている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>お部屋が分かるように装飾したり、目印となるような物を配置するなど工夫している。個人の力に合わせ、介助しすぎないように注意している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑を作り収穫を楽しんだり、隣の棟へ遊びに行ったり、近くにあるカフェへお茶をしに行くなど活用されている。</p>		<p>施設の中に地域の住民の方をお誘いできるように一緒に行うお菓子教室など少しずつ検討していきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然の中にあり、鳥の声や虫の鳴き声、植物や山菜など季節感を肌で感じられる施設です。その中で山菜やきのご狩り、遊歩道の散歩など楽しめます。同一法人の敷地内を自由に移動しあうことが出来、交友関係を幅広く築くことも出来ます。近くにある「カフェ・クローバー」にはいつでも出かけられコーヒーを楽しめたり、夜に居酒屋を使用することも出来ます。個人の希望に合わせ、様々な事を経験出来るように日々取り組んでいます。